第３回日野市指定管理者市民評価委員会議事要点録

日時	平成 23 年 7 月 4 日（月）午後１時～午後５時
場所	市役所４階　庁議室
出席者	坪島委員長、鈴木副委員長、佐藤委員、貴志委員
議題	１.日野市立つばさ　（社）日野市福祉事業団 ２.日野市立やまばと　（社）日野市福祉事業団 ３.日野市立はくちょう　（社）日野市福祉事業団 ４.日野市立希望の家　（社）日野市福祉事業団 の報告、評価、採点
	● 内容 ・指定管理者による報告　10 分 ・市民委員からの質疑（指定管理者）　25 分 ・市民委員からの質疑（主管課）　10 分 ・まとめ（採点）　10 分
議題１	● 日野市立つばさ： 指定管理者（社会福祉法人　日野市福祉事業団）による報告 ＝主な質疑（指定管理者）＝ （質問） 就労移行支援事業の詳細について。 （回答） 現時点（平成２３年７月４日）での登録者数は０人。現在は平成２１年度の利用者で、就労した方の職場定着を支援している。 （質問） 就労移行支援事業の登録者数は増えないのか。 （回答） 利用者については、七生特別支援学校の卒業生（平成２２年度は１８名）が主だが、特別支援学校の就労プログラムが充実してきているため、卒業生の４割が直接企業に就労する。また、３割は重度の障害があるため、生活介護のサービスを受け、残りの３割が就労継続支援のサービス対象者である。つまり、卒業時点で就労できる見込がある生徒については、特別支援学校から直接就労する生徒がほとんどである。 （質問） 現在の流れとして、就労できる者は就労するという流れがある以上、就労継続支援事業よりも就労移行支援事業に力を入れるべきではないか。利用者一人ひとりに合わせた職場開拓と、職場開拓のための関係機関とのネットワーク作り等をするのであれば、人員を削らなくてもよいのではないか。ただし、やはり民間と比べて効率の悪い業務内容と人件費は削減する必要があるのだが。

	（質問） 就労移行支援事業が卒業生にとって必要ないのであれば、そこに力を入れる必要はないし、そういった事業の見直しはしないのか。 （回答） サービスに必要な人員については確保しつつ、人件費の削減は常に考えている。 （回答）主管課 つばさだけでなく、全体として就労移行支援事業の利用者が減少しているのを考えると、他の事業所も含めて市全体で就労移行支援事業の今後を考える必要がある。） （質問） 他法人の事業所との交流・ネットワーク作りはどうしているのか。職員全体の経験年数や職員数からも、市のネットワークの拠点になるべきではないか。 （回答） 情報収集や共有のために他施設に職員を派遣したり、ネットワーク会議への出席を積極的に行い、職員の視野を広げている。 （質問） 給食のセンター化について伺いたい。 （回答） 給食のセンター化によって、正規職員を１名＋臨時職員の体制に再編した。また、隣接する夢ふうせんに献立表の提供を行なっている。今後近隣住民にも立ち寄ってもらえるような取り組みも検討したい。 （質問） 事業団全体での給与体系・人件費の削減について。 （回答） 国制度に基づいた障害福祉サービスの収入で事業運営が成り立つようにしていきたい。隣接する夢ふうせん等と比べ、まだ人件費が高いので、民間を意識して下げてきてはいる。職員のモチベーションの問題もあるので、給与削減とモチベーション維持のバランスをとって取り組んでいく。 （質問） ジョブコーチの資格を持っている職員の数は何人か。 （回答） １名。利用者の職場定着支援を行っている。 （要望） 個人情報を扱うローカルなパソコンとインターネットにつなぐパソコンは別々にした方がよい。サーバーも別々に。 ＝主な質疑（主管課）＝ （質問） 主管課としての評価はどうか。

	（回答） 指定管理の２期目であるが、定員を満たしていないことから、魅力あるプログラムの実施や人件費に関連した事業運営にまだ課題があるが、運営内容は改善されよくなってきている。 （質問） 事業団全体について、更なる改革は難しいと思うが、人件費削減や職員のモチベーション、資質、熱意といった面ではどう見ているか。 （回答） 厳しい現状を認識していると感じている。民間並に収入と支出のバランスをうまく取れるようにしていく。 （質問） 就労移行支援事業の現状について教えていただきたい。 （回答） 他の民間法人も含め、縮小若しくは廃止する事業所が多い。市として今後事業の必要性も含めて検討していく。 （質問） 就労移行支援事業について、就労するためには企業等とのパイプが必要なのか。 （回答） 基本的には、施設での訓練内容と利用者の能力が特例子会社等の企業が求める人材と旨くマッチングするかだと思う。 （質問） 事業団全体について、施設管理と事業展開で切り分けをしないのか。現場での事業確認等は定期的に行っているのか。 （回答） 指定管理では施設管理と事業展開を同時に行うとしている。現場の確認はその都度行っている。 （質問） つばさを含む４施設は、事業団が公設民営として運営しているが、事業団がやるかどうかも含め、民間移行も視野に入れていくべきではないか。 （回答） 利用者や家族の意向を考慮したうえで、将来的には民間法人による事業運営の方向で協議を進めている。 ＝まとめ（採点）＝

議題２	● 日野市立やまばと： 指定管理者（日野市福祉事業団）による報告 ＝主な質疑（指定管理者）＝ （質問） 定員は 20 名、登録者数が 33 名となっているが、日野市全体で身体・知的の障害者はそれぞれ何人いるか。やまばとの職員体制についても伺いたい。 （回答）主管課 身体障害者が約 4，500 名、知的障害者が約 750 名 （回答） 職員体制は、常勤が 2 名で臨時職員が 1 名 （質問） 65 歳以上の利用者はいるか。利用者の身体・知的・精神の割合はそれぞれどの位か。 （回答） 65 歳以上の利用者はいない。 利用者は身体障害者が多く、知的障害者はほとんどいない。精神障害者は市内の別事業所（ゆうき）で対応する。 （質問） 平成 22 年度の相談件数は何件か。 （回答） 延べ件数は約 3，000 件。平成 21 年度と比較して 237 件増えた。 （質問） アンケートを実施する際に、利用者が不都合にならないよう配慮をしているか。 （回答） 利用者から要望があれば業務の範囲内で対応している。不満等については、別に目安箱を設置し、必要に応じて対応している。 （質問） 利用者の怪我等に対して保険はあるのか。 （回答） 怪我をした場合を想定して、損保会社と保険の契約を締結している。 万一事故が起こった際は、やまばとの職員である看護士が処置をし、その後通院するという体制がとられている。また、事故報告を作成し、事故の原因究明・分析を行っている。 （質問） 今回の大震災を受け、防災マニュアル等の見直しは行ったか。 （回答） 家族会と協働して避難訓練を実施した。また、送迎ができないことを想定し、お迎え訓練も行った。 （質問）

	上記の避難訓練の際に、やまばとの職員だけで避難体制は不足しないか。 （回答） 事業団本部・つばさ・やまばとの全職員で対応した。 今後は地域住民と協力して避難訓練ができるように対応を検討中。できれば平成２３年度中に協定を結びたい。 （質問） 現在の登録者数についてどのように考えているか。 （回答） ３３人は決して多いとは思っていない。この３３人は月～金曜日に定期的に来所する方である。 相談支援事業や社会交流事業を含めた利用者はもっと多い。 （質問） 利用者のほとんどは中途障害者なのか。その方々はデイケアのような感じで利用しているのか。 （回答） ８～９割が中途障害者である。デイケアのように考えて利用している方はいる。 （質問） 障害の程度が改善する可能性はあるのか。 （回答） やまばとは地域活動支援センターとして、日々の生活を楽しむ場としての利用がメインなので、障害の軽減は目的としていない。 （質問） 行政サービスが提供している体操もメニューの中に入れてはどうか。 （回答） 利用者によって障害がそれぞれ違う。難しいとは思うが検討してみたい。 （質問） これから新たに展開しようとしている事業はあるか。 （回答） 地域活動支援センターについては、若年層への支援プログラムが手薄となっている。 若い方のニーズを把握し、こたえて行けるようになっていきたい。 相談支援事業については、施設で相談を待つだけでなく、こちらから外に出て行って、相談に乗っていくこともやっていきたい。 ＝主な質疑（主管課）＝ （質問） 現状の作業療法士等の専門職員の配置は十分と考えているか。 （回答） 必要に応じて事業団全体として対応している。

	（質問） 中途障害者に係らず、やまばとの案内はどの様にしているか。 （回答） 手帳交付時には、等級等によって該当する各サービスを説明している。また、市内相談支援窓口のネットワークがあるので、必要であればそちらからの紹介もある。 （質問） 市内の障害者の数に対し、登録者数が少ないが。 （回答） 身体障害の方は、日頃の生活の中で情報を得る機会（インターネット等）が多い、又知的障害の方は、通所施設を利用しているなどにより相談相手がいるなどが考えられるが、登録者数３３人は少ないといえるかもしれない。 （質問） ３０～４０代の男性向けのプログラムが少ない。 （回答） 料理教室や映画鑑賞会といったプログラムが多い。中高年の男性に魅力あるプログラムを提供し、孤立しないように工夫することは必要だと思う。 （質問） 震災対応が甘いのではないか。 （回答） 今回の震災レベルの対応では、市と事業団が適切に連携して被害等はなかったが、可能な限り考えられる対策については検討していく。 ＝まとめ（採点）＝
議題３	● 日野市立はくちょう： 指定管理者（社会福祉法人　日野市福祉事業団）による報告 ＝主な質疑（指定管理者）＝ （質問） 職員体制について伺いたい。 （回答） 施設長１名、看護士１名、正規職員の支援員４名、臨時職員の支援員２名 （質問） 平成２２年度と比べ、利用者は増えたか。 （回答） ２名利用者が増えた。その内１名が特に重度の方である。 （質問） 重度の方が増えているということだが、人員配置はどの様になっているか。

	（回答） 人員配置は法的基準では、利用者：職員＝３：１と定められているが、平成２３年度は２．５：１で対応している。特に重度の方はマンツーマンで対応している。 （質問） 今回の大震災の際など、緊急時に職員は不足しなかったか。 （回答） 指示だけでは動いてくれないので、緊急時には職員が利用者を連れて避難する。３月１１日は外には避難せず、屋内で対応したが、大きな混乱はなかった。 （質問） 様々な会議を開いているようだが、それぞれどのようなものか教えてほしい。 （回答） 職員会議とケース会議：利用者について個別に話し合いを行い、個別支援計画の策定をしている。職員８名が全員参加 支援員会議：イベントや利用者の状況について話し合う。施設長を除く７名が参加 朝会：一日の予定やスケジュールの変更事項を確認 反省会：一日の振り返りを行う。 （質問） 他施設と連携した支援体制はとられているか。 （回答） 障害福祉課・他法人の生活介護施設・特別支援学校と必要に応じて連携している。 （質問） アルミ缶のつぶし作業について、アルミ缶はどの様に集めるのか。 （回答） 近隣の地域の方やその他にも市民の協力があり必要数を集めることが出来ている。 （質問） 今後の抱負について。これから展開していきたい事業はあるか。 （回答） ①　障害程度区分５・６の重度の障害者が多いので、今後も重度の障害者を受け入れる施設でありたい。 ②　職員体制をしっかりとっていきたい。 ③　利用者が、施設に入所するのではなく、地域生活に移行できるように、ケアホームやグループホームを展開していきたい。 （質問） ボランティアの方と共同で運営をしないのか。 （回答） 職員だけでなく、ボランティアも必要だという認識はある。現在、週１回２名のボランティアに来ていただいている。また、祭りや遠足等の行事にも学生等がボランティアで手伝いに来てくれる。

議題４	＝主な質疑（主管課）＝ （質問） 重度の方の世話をする人材を育てるのは難しいのではないか。 （回答） 大学と連携し、学生のインターンシップ受入れなど人材の育成を図っている。その内の１人か２人でも市内の福祉関係の事業所に入ってきてほしいという期待はある。 ＝まとめ（採点）＝ ● 日野市立希望の家： 指定管理者（社会福祉法人　日野市福祉事業団）による報告 ＝主な質疑（指定管理者）＝ （質問） 健診の際に医師から発達障害の疑いがあると診断されたとしても、両親は子供の障害を認めたくないものだと思うが、誰が希望の家へつなぐのか。 （回答） 健康課の保健師の力が大きい。また、希望の家を卒園した利用者の保護者が紹介してくれる事例も多い。 （質問） どのように希望の家をアピールしているか。 （回答） 「子どもまつり」等のイベントに参加し施設の PR とともに、チラシによる啓発活動などを行っている。 （質問） 職員体制を伺いたい。 （回答） 保育士の資格を持つ正規職員が５人、保育士もしくは幼稚園教諭の資格を持つ臨時職員の支援員が５人 （質問） 利用者の人数について伺いたい。 （回答） 利用者は増えている。療育時間を細分化する等の工夫をし、利用できる機会を増やす努力をしている。施設が手狭で老朽化もしてきているが、平成２６年４月に（仮称）発達支援センター内に移る予定である。 （質問）

	少子化なのになぜ利用者が増えているのか。 （回答） 節目の健診で「気になる子」が早期に発見されることが多くなっている。また、子供が成長するにつれ、両親等周りの大人が徐々に気付き始める。 （質問） 利用者の各障害別の割合はどうなっているのか。身体の子供はどこで受け入れているのか。 （回答） 知的に遅れている子供や広汎性発達障害の子供が割合的に多い。車いす等の身体障害の子供は島田療育センターで受け入れている。 （質問） 日野市全体での発達障害児の割合はどのくらいなのか。 （回答） まだ全容は把握していない。３０人に１人や２人ぐらいはいると思われる。ただし、以前と比べ、発達障害と思われる子供が増えているのは間違いない。そのため、希望の家の利用者が増えている。 （質問） 保育士による早期発見について伺いたい。 （回答） 保育士が「気になる子」を見つけた場合、その子供の両親に、病院に行くように促してもらっている。病院で医師が診断することで、両親が子供の障害を受容できる。希望の家では保育園・幼稚園との連携を強化している。 （質問） 早期発見によって、子供たちはどのような希望を持てるか。 （回答） しゃべれるようになる、歩けるようになる等といった目に見えるわかりやすい成果を出すことは難しい。しゃべれないけどコミュニケーションはできる、基本的な日常生活を送れる等といった目標を掲げ、達成できるようにしている。そのために、経験年数の長い職員が集中して子供を見ている。 （質問） これから希望の家をどのようにしていきたいか。 （回答） １歳児を受け入れられるようにし、卒園生の相談にも乗っている。今後もこのようなことを続け、子供が発達障害であっても、保護者が安心して子育てをできる環境を作っていきたい。 （質問） 建物の老朽化について伺いたい。 （回答）

	平成２６年度に開設予定の（仮称）発達支援センターに移転するまで、必要な改修を行いながら旨くつなげて行きたい。また、避難訓練を隣の児童館と連携して実施するなど、対策を練っている。 ＝主な質疑（主管課）＝ （質問） 希望の家をどのように評価しているか。 （回答） 市内唯一の児童デイサービスの施設であり、歴史もあり、市としても評価をしている。自主的な取り組みについても、行政が投げかけたことについてもきちんとやっている。ただし、行政としては、児童の時期だけではなく、就学後や成人後の切れ目のない支援についてもしっかりと考えなければならない。 （質問） 建物の老朽化については、どのように対策するのか。 （回答） 小規模改修など必要な対応はしながら、平成 26 年度に開設予定の（仮称）発達支援センターに移行したい。 （質問） 建物の老朽化の問題もあるのだから、発達支援センターの立ち上げを早められないのか。 （回答３） （仮称）発達支援センターの建物自体の完成は平成２５年度末の予定なので、難しい。 ＝まとめ（採点）＝ ※次回７月７日（木）午後１時～庁議室 １.交流センター6 施設（豊田駅北,南平駅西,東町,落川,平山,新町） （株）日野市企業公社 ２.万願寺交流センター　NPO 法人日野子育てパートナーの会 ３.多摩平交流センター　NPO 法人市民サポートセンター日野 ～第３回日野市指定管理者市民評価委員会終了～